



平成23年3月期

決算説明会

新中期経営計画

平成23年5月20日

エバラ食品工業株式会社



1. 平成23年3月期 決算報告

2. 平成24年3月期 業績見通し

3. 新中期経営計画

巻末資料

決算のポイント

1. 価値創造型プロモーションにより家庭用主力商品が好調であった。新商品の売上貢献度も高い。

2. 売上原価は前期水準を維持した。
売上増に比して販管費の増加を抑えることができ、増益となった。

3. 震災による直接的な被害は軽微であった。
(北関東物流センター、仙台支店、栃木工場 等が被災)

決算概要 損益の状況

増収増益を達成した。営業利益率も改善した。

| (単位:百万円) | H22.3 | H23.3 | 前期対比 | |
|----------|--------|--------|-------|-------|
| | | | 増 減 | 増減率 % |
| 売上高 | 47,647 | 49,313 | 1,665 | 3.5% |
| 売上総利益 | 22,970 | 23,736 | 765 | 3.3% |
| 売上総利益率 % | 48.2% | 48.1% | △0.1% | |
| 営業利益 | 1,654 | 2,080 | 425 | 25.7% |
| 営業利益率 % | 3.5% | 4.2% | +0.7% | |
| 経常利益 | 1,752 | 2,223 | 471 | 26.9% |
| 経常利益率 % | 3.7% | 4.5% | +0.8% | |
| 当期純利益 | 834 | 1,104 | +269 | 32.3% |
| 当期純利益率 % | 1.8% | 2.2% | +0.4% | |

決算概要 貸借対照表の状況

増益により自己資本比率が微増した。

| (単位:百万円) | H22.3 | | H23.3 | | 前期対比 増減 |
|----------|--------|--------|--------|--------|------------|
| | | 構成比 % | | 構成比 % | |
| 総資産 | 30,404 | 100.0% | 30,687 | 100.0% | 282 |
| 流動資産 | 17,328 | 57.0% | 17,753 | 57.8% | 424 |
| 固定資産 | 13,075 | 43.0% | 12,933 | 42.2% | △141 |
| 負債 | 12,393 | 40.8% | 11,977 | 39.0% | △423 |
| 純資産 | 18,010 | 59.2% | 18,716 | 61.0% | 705 |
| 自己資本比率 | | 59.2% | | 61.0% | +1.8% |
| 負債比率 | | 68.8% | | 64.0% | △4.4% |
| 流動比率 | | 183.8% | | 199.1% | +15.3% |
| 固定比率 | | 72.6% | | 69.1% | △3.5% |

キャッシュ・フローの状況

増益による現金流入等により営業活動によるCFは前期比プラス。

前期設備投資の支払い等により投資活動によるCFは前期比マイナス。

| (単位:百万円) | H22.3 | H23.3 | |
|--------------------------|--------|--------|------|
| | | | 増減 |
| (1) 営業活動によるCF | 1,703 | 2,477 | 774 |
| (2) 投資活動によるCF | △1,787 | △2,313 | △525 |
| 財務活動によるCF | △289 | △289 | 0 |
| 現金及び現金同等物の 増加額(△は減少額) | △363 | △130 | 233 |
| (1)と(2)の合計 | △84 | 164 | 249 |

営業活動によるCF

- ・税金等調整前当期純利益
2,016百万円
- ・減価償却費 1,283百万円
- ・売上債権増加額 △616百万円
- ・仕入債務増加額 475百万円

投資活動によるCF

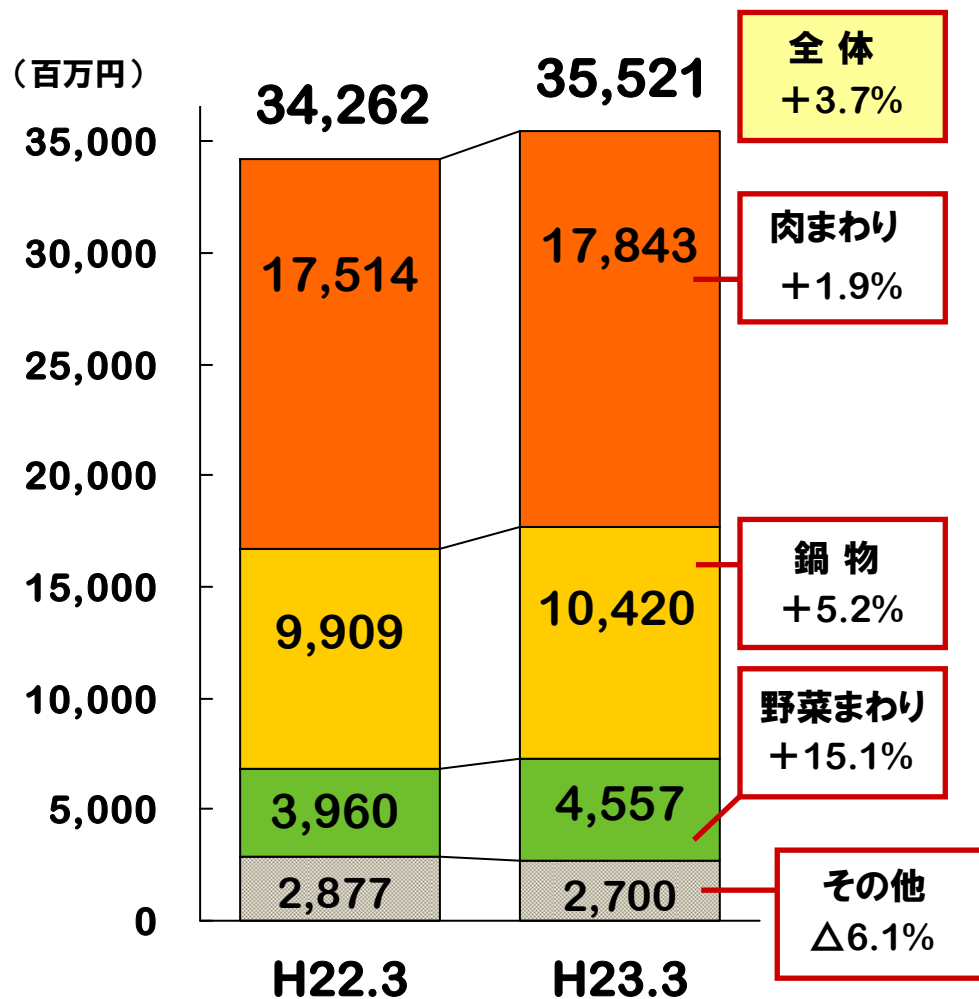
- ・固定資産の取得による支出
△2,102百万円

財務活動によるCF

- ・配当金の支払額 △285百万円

食品事業 家庭用商品の状況

肉まわり調味料、鍋物調味料、野菜まわり調味料が好調であった。



肉まわり調味料群

- ・新商品『黄金の味 具たくさん』が大きく貢献した。

鍋物調味料群

- ・『すき焼のたれ』は、「すき焼き」の食シーンを広げるきっかけ作りと汎用メニューを広げる訴求の相乗効果により好調に推移した。

野菜まわり調味料群

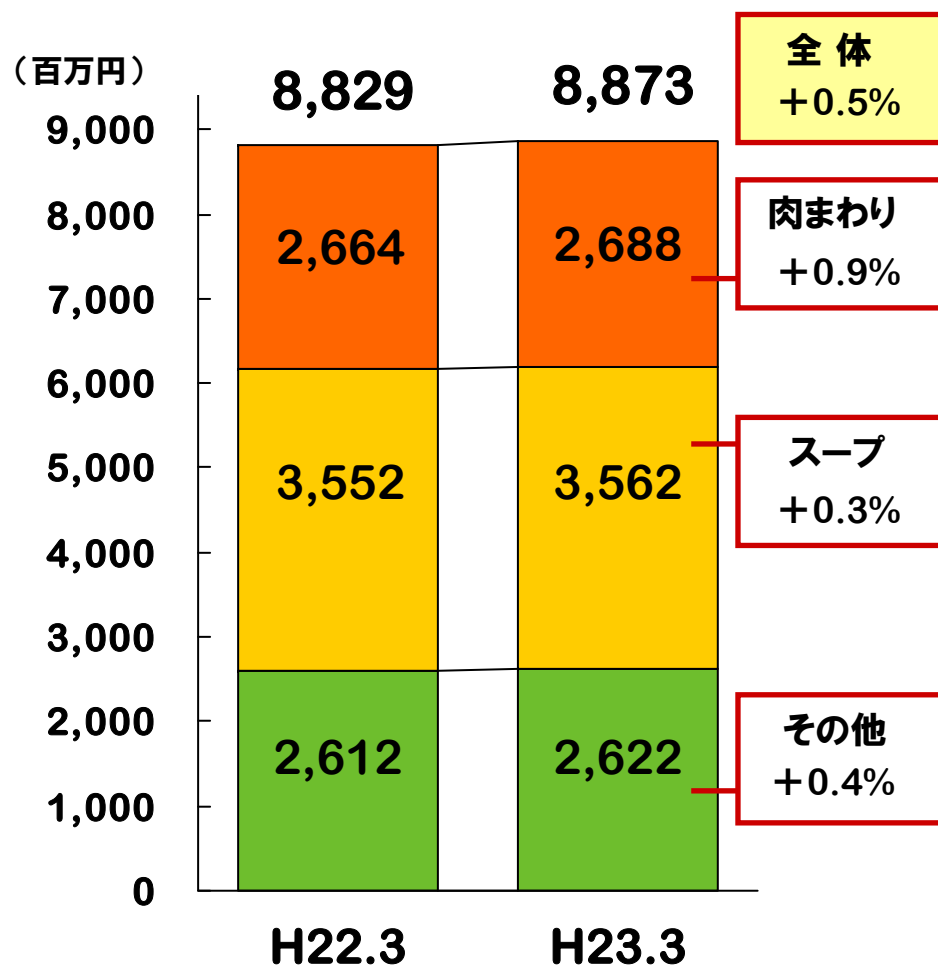
- ・『浅漬けの素』が、子供が野菜を食べやすくなるという価値を訴求するプロモーションにより、大幅に伸長した。

その他群

- ・『おいしいキムチ』に天候不順による原材料の調達難により品薄状態となった。

食品事業 業務用商品の状況

各商品群がいずれも前期を上回る売上高となった。



肉まわり調味料群

- ・荏原食品(上海)の貢献もあり、『焼肉のたれ』が堅調に推移した。

スープ群

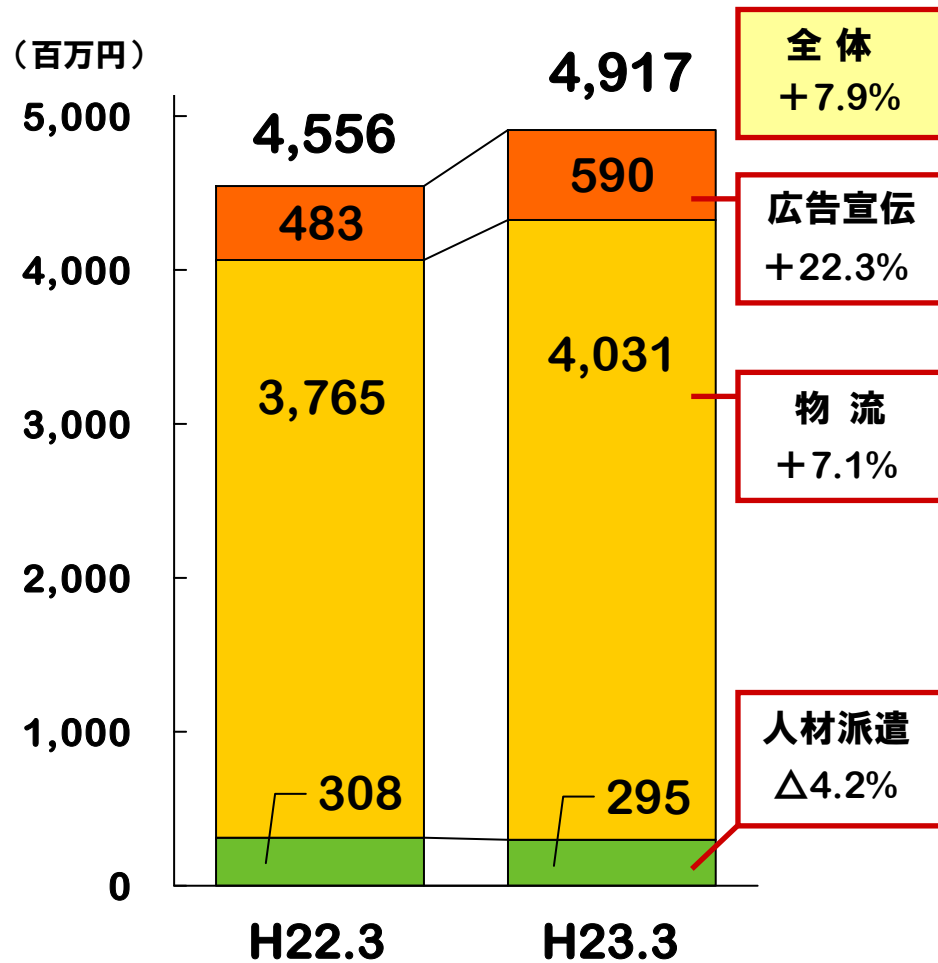
- ・ラーメンスープの売上が伸長した。豚骨スープや担々麺スープ等の豊富なラインナップを揃え、市場ニーズに対応したことが奏功した。

その他群

- ・『浅漬けの素』や『トマト鍋の素』が好調であった。

その他事業

広告宣伝事業及び物流事業が好調に推移した。



広告宣伝事業

- ・ 企業広告費が減少傾向にある状況下で、新規顧客の獲得により売上を伸ばした。

物流事業

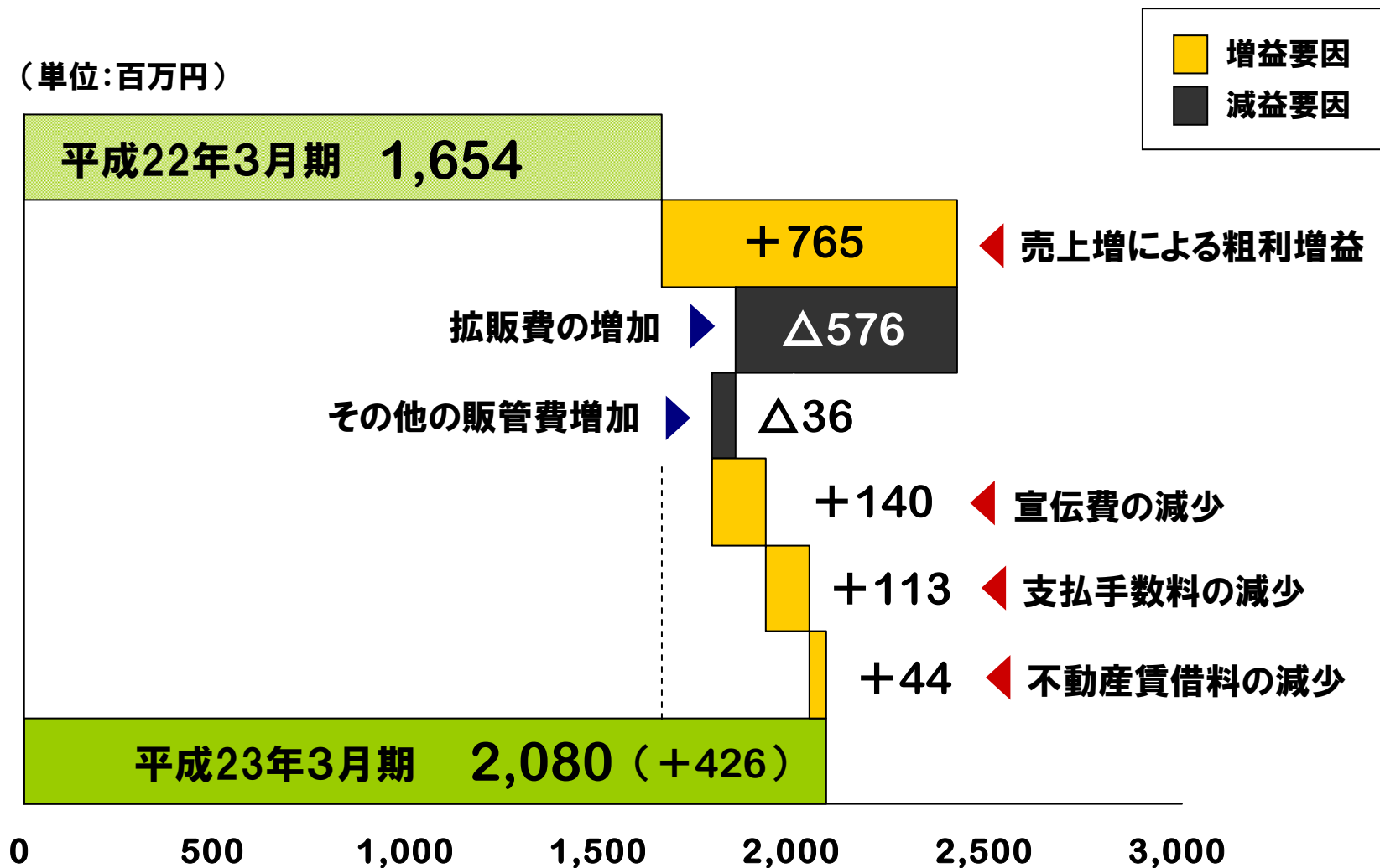
- ・ 営業体制強化、宇都宮物流センターの新設及び食品共同配送の品質向上等により既存顧客との取引量を増加させたことに加え、新規の大口顧客の獲得により前期実績を上回った。

人材派遣事業

- ・ 積極的な営業活動で新規顧客の開拓に努めるも、売上高は前期実績を下回る結果となった。

営業利益の分析

(単位:百万円)



経常利益及び当期純利益

東日本大震災に関する特別損失として1億50百万円を計上した。

| (単位:百万円) | H22.3 | | H23.3 | |
|----------|--------|--------|--------|--------|
| | | 構成比% | | 構成比% |
| 売上高 | 47,647 | 100.0% | 49,313 | 100.0% |
| 営業利益 | 1,654 | 3.5% | 2,080 | 4.2% |
| 営業外収益 | 103 | | 147 | |
| 営業外費用 | 6 | | 4 | |
| 経常利益 | 1,752 | 3.7% | 2,223 | 4.5% |
| 特別利益 | 3 | | 1 | |
| 特別損失 | 170 | | 207 | |
| 当期純利益 | 834 | 1.8% | 1,104 | 2.2% |

営業外収益の内訳

- ・ 受取利息配当金 25百万円
- ・ 保険解約金 47百万円
- ・ 賃貸収入 23百万円
- ・ 有価証券利息 21百万円

営業外費用の内訳

- ・ 支払利息 3百万円

特別損失の内訳

- ・ 固定資産売却損 15百万円
- ・ 資産除去債務影響額 39百万円
- ・ 災害損失 93百万円
- ・ 災害損失引当金 56百万円

主要指標の推移

| | H21.3 | H22.3 | H23.3 |
|-----------------|----------|----------|----------|
| ROA（総資産当期純利益率） | 1.6% | 2.8% | 3.6% |
| ROE（自己資本当期純利益率） | 2.7% | 4.7% | 6.0% |
| 当期純利益率 | 1.1% | 1.8% | 2.2% |
| 総資産回転率（回） | 1.6 | 1.6 | 1.6 |
| 財務レバレッジ（倍） | 1.7 | 1.7 | 1.6 |
| 1株当たり当期純利益（円） | 40.25 | 78.59 | 104.03 |
| 1株当たり純資産（円） | 1,641.86 | 1,696.87 | 1,763.79 |
| 1株当たり配当金（円） | 27 | 27 | 27 |
| 従業員数（人） | 623 | 648 | 662 |

1. 平成23年3月期 決算報告

2. 平成24年3月期 業績見通し

3. 新中期経営計画

巻末資料

平成24年3月期 業績見通しのポイント

1. チルド事業を除いた既存の食品事業は前期比102%の成長を計画している。

2. チルド事業は合併事業化し、さらなる成長を図る。
(合併会社は持分法適用会社となる予定)

3. 原材料価格の上昇に加え、企業体質強化のための先行投資により減益計画となる。

平成24年3月期 業績見通し

| (単位:百万円) | H23.3 | H24.3 | 前期対比 | |
|----------|--------|--------|-------|--------|
| | 実績 | 見通し | 増減 | 増減率 % |
| 売上高 | 49,313 | 49,360 | 46 | 0.1% |
| 売上総利益 | 23,736 | 23,540 | 196 | △0.8% |
| 売上総利益率 % | 48.1% | 47.7% | △0.4% | |
| 営業利益 | 2,080 | 1,790 | △290 | △14.0% |
| 営業利益率 % | 4.2% | 3.6% | △0.6% | |
| 経常利益 | 2,223 | 1,730 | △493 | △22.2% |
| 経常利益率 % | 4.5% | 3.5% | △1.0% | |
| 当期純利益 | 1,104 | 790 | △314 | △28.4% |
| 当期純利益率 % | 2.2% | 1.6% | △1.6% | |

1. 平成23年3月期 決算報告

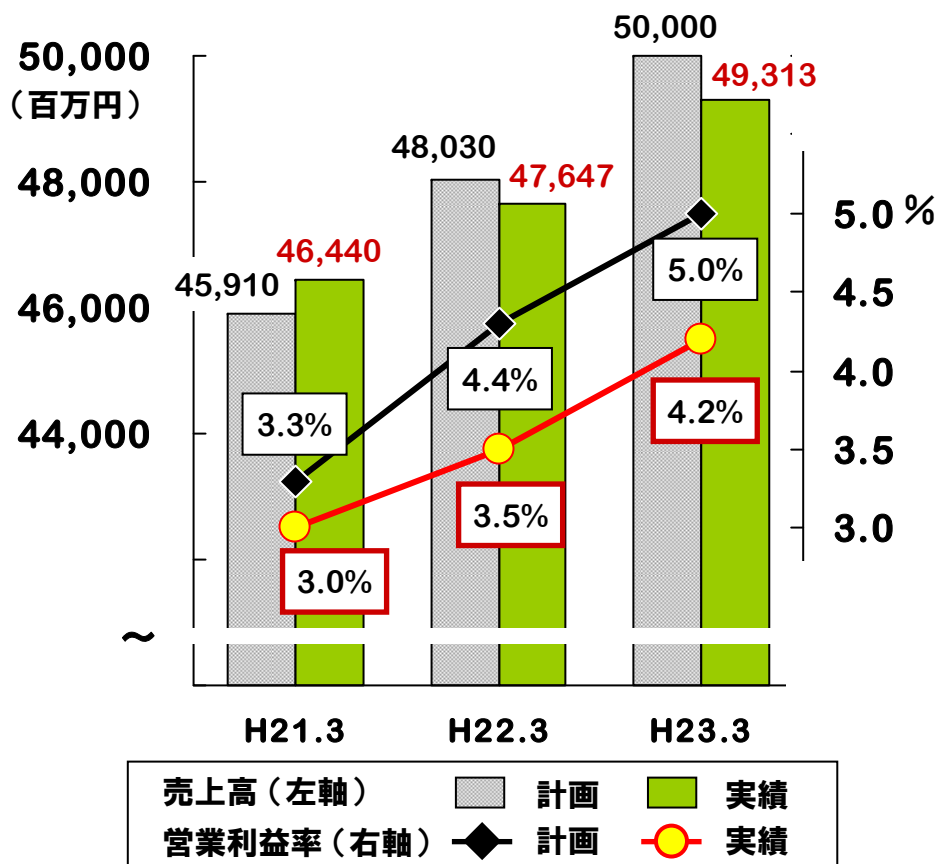
2. 平成24年3月期 業績見通し

3. 新中期経営計画

巻末資料

中期経営計画（H21.3-H23.3）の振り返り

売上高、営業利益いずれも計画に届かないものの、家庭用の肉まわり、鍋物及び野菜まわり調味料群は計画を達成した。



平成23年3月期の結果

単位:百万円

| | 売上高 | 営業利益 | 営業利益 (%) |
|----|--------|-------|----------|
| 計画 | 50,000 | 2,500 | 5.0% |
| 実績 | 49,313 | 2,080 | 4.2% |
| 差額 | △687 | △420 | △0.8% |

※ 計画値は中期経営計画設定当初の数値です。

中期経営計画（H21.3-H23.3）の振り返り

次の成長に向けた新しい試みが実りつつある。
海外事業は着実に前進した。

● 成長に向けた事業構造の強化（経営資源の集中）

・ 既存事業の規模拡大
及び高付加価値化

既存事業の高付加価値化への転換は進みつつある。

・ 新規事業の確立及び拡大

海外事業は安定して売上を伸ばした。
チルド事業は生産管理体制に課題を残した。

● 経営基盤の整備及び強化

・ 業務革新の推進
・ 生産体制の再構築
・ 財務及び資本政策の強化

・ ブランド戦略の形成
・ 開発、マーケティング力の強化
・ 新人事制度の導入
・ 原材料の複数購買化
経営基盤は順調に整いつつある。

新中期経営計画（H24.3-H26.3）

経営ビジョン 『価値創造企業への挑戦』

安定的な収益を継続的に創出する企業体質の強化
グローバル展開の道を拓き、“たれ”を伝播
ブランドを通じたコミュニケーション活動の活発化
新市場への参入及び事業育成の取り組みの強化
人材の育成と組織活性化

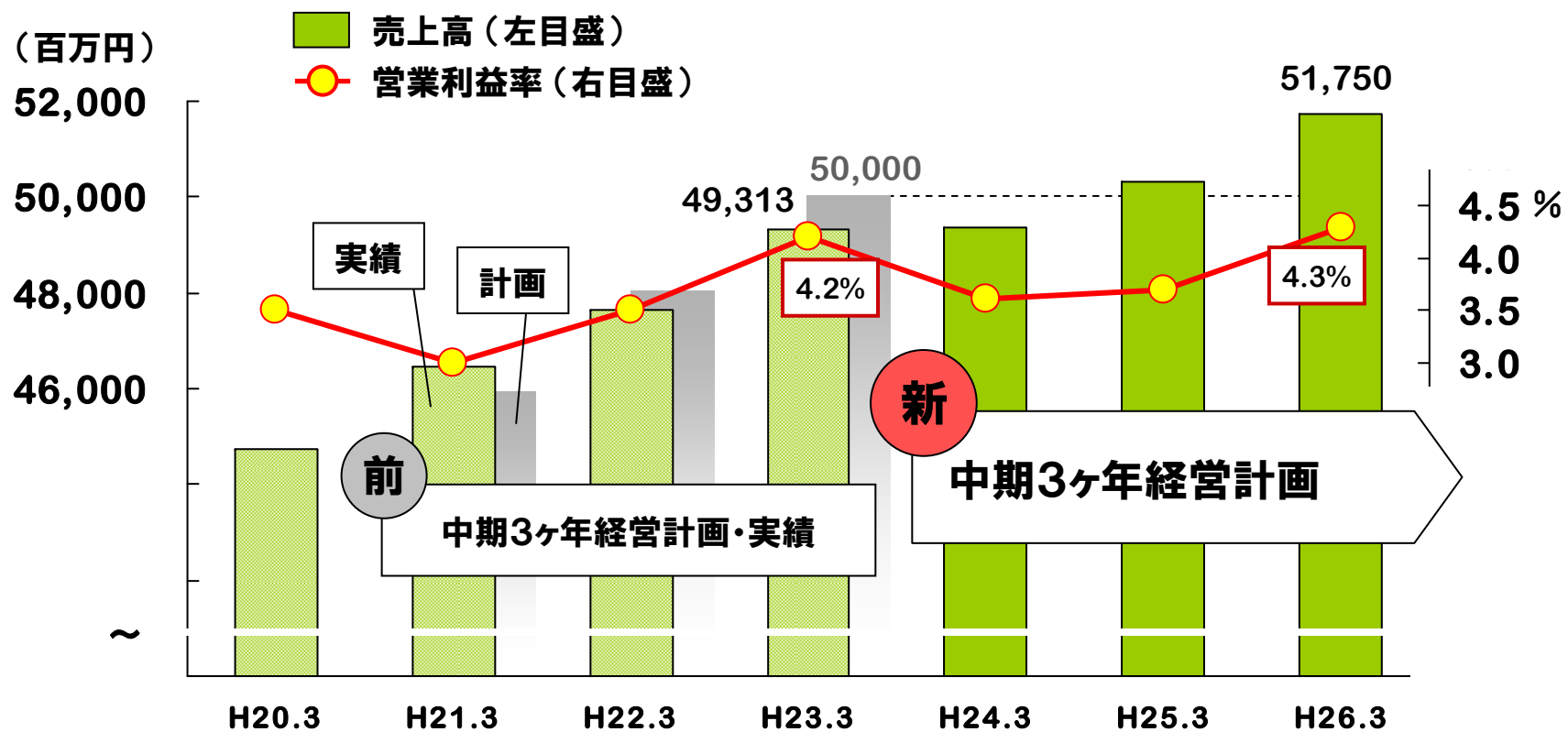
基本戦略

1. 基盤事業の深耕による収益力の向上
2. 持続的成長に向けた事業育成の取り組み
3. ブランドマネジメントの推進
4. 企業体質の強化

新中期経営計画（H24.3-H26.3）

平成26年3月期 業績目標

| | | | | |
|--------|-------|-------|-------|-------|
| 売上高 | 営業利益 | 営業利益率 | 経常利益 | 経常利益率 |
| 517 億円 | 22 億円 | 4.3% | 24 億円 | 4.6% |



食品事業 家庭用商品

■ ロイヤル顧客の育成

- ・ ブランド戦略の展開
- ・ 価値創造型マーケティング

■ 市場シェアの拡大

- ・ エリアマーケティング
- ・ 世代ニーズへの対応

■ 新市場創造型商品 (MIP) の開発

目指したものは新しい武器の獲得
価格から価値への転換 が課題であった。

お客様が商品とともに手にできる
シーン・絆・喜びの価値訴求



トライ&エラーを繰り返しながら
構築してきた開発組織

インサイト*で
お客様のところに飛び込む
プロモーション

今までとは違う商品価値を
生み出す商品開発

* 消費行動を起こす原因となる「深層心理
や潜在的な欲求」の洞察で得た知見。

食品事業 業務用商品

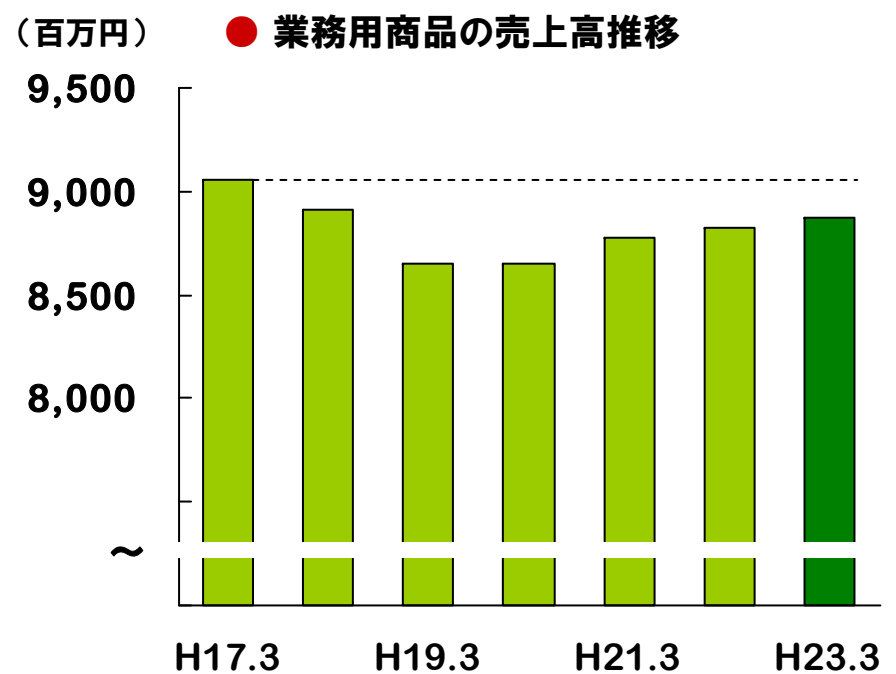
■ スープ事業への経営資源の集中

- ・ “がらスープ”の自社工場生産の推進による原価の改善
- ・ ラーメンに特化した“がらスープ”商品の投下による販売連動性を強化
- ・ 業態別の商品政策（産業給食、ラーメンチェーン）

■ 利益商品群の強化

- ・ 肉まわり及び野菜まわり調味料群における家庭用商品との連動

売上回復と利益確保が課題
まだまだ大きく伸びる余地はある。



※ H17.3及びH18.3は冷凍食品群を控除した金額です。

海外事業

■ 荏原食品(上海)有限公司

- ・ 中国市場での安定した事業成長
- ・ 販売力、商品展開(メニュー提案)の強化
- ・ 中国を起点とした新たな事業可能性の追求

■ 輸出入事業(東アジア)

- ・ 既存顧客への販売サポート強化
- ・ 業務用を中心とした商品展開
- ・ 社内体制、各地域パートナーシップの確立

● 荏原食品(上海)有限公司

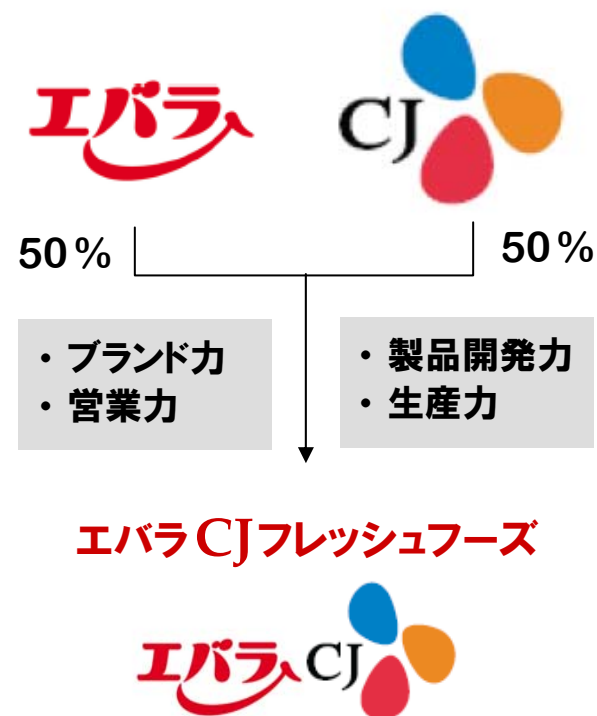


チルド事業

CJ CheilJedang Corporation との合併会社により事業を展開する。
 キムチを中心に韓国チルド食品で国内 No. 1 企業を目指す。

● 合併会社の概要

| | |
|-----------|---|
| ① 商号 | 株式会社 エバラCJフレッシュフーズ |
| ② 本店所在地 | 神奈川県横浜市 |
| ③ 代表者 | 代表取締役社長 黒沼 茂男 |
| ④ 事業内容 | 日本国内における家庭用チルド商品の販売 |
| ⑤ 資本金の額 | 2億50百万円 |
| ⑥ 設立年月日 | 平成23年6月中旬（予定） |
| ⑦ 事業年度の末日 | 3月31日 |
| ⑧ 出資比率 | エバラ食品工業株式会社 : 50% CJ CheilJedang Corporation : 50% |



※ 当社の持分法適用会社となる予定

チルド事業

● CJ CheilJedang Corporation の概要

○ 特徴

韓国食品No. 1ブランドである。生活創造企業を目指す。
 韓国を代表するマーケティング力を持つ。
 売上構成 : 食品78.0% バイオ10.3% 飼料11.1%
 (2010年度) その他0.6%

○ 主要指標

2010年度 売上高 2,934億円
 (単体) 営業利益率 5.2%
 総資産 3,695億円
 (※100ウォン=7.4円で換算)

| | |
|-------------|---------------------------------|
| ① 商号 | CJ CheilJedang Corporation |
| ② 本店所在地 | 韓国 ソウル市 |
| ③ 代表者の役職・氏名 | 代表理事社長 金 泓昌 |
| ④ 事業内容 | 食品(砂糖、小麦粉、食用油類等)、飼料、医薬品の製造・輸出入業 |
| ⑤ 資本金の額 | 70,512百万ウォン (約5,309百万円) |
| ⑥ 設立年月日 | 1953(昭和28)年11月5日 |
| ⑦ 大株主及び持株比率 | CJ Corporation 34.3% |

こころ、はずむ、おいしさ。

エバラ

- コーポレートステートメントの制定と新コーポレートロゴの導入

③ ブランドマネジメントの推進

エバラブランドが
目指す姿

エバラの
ミッション

事業ミッション

肉まわり
調味料群

鍋物
調味料群

野菜まわり
調味料群

新しいおいしさにより、
そこに人が集い、笑顔が生まれる

エバラが目指す姿

みんなで楽しめる“一步先のおいしさ”を提供し、
“絆づくり”の機会を広げる

こころが動かないとマーケットは動かない。

“たれ”で新しい“肉料理”の可能性を広げていく

鍋を通年の家庭料理にし、「鍋といえばエバラ」を広めていく

“たれ”で野菜をもっと身近なものにする

④ 企業体質の強化

① コスト競争力の強化

継続的なコスト削減への取り組み

- ・ 原材料高騰への対応
- ・ 廉価な代替原料の探索
- ・ 販促費用の効果的運用

② ものづくり基盤の強化

安全安心を担保する生産体制の強化

- ・ 長期工場投資計画の設定
- ・ パウチ、多品種小ロット対応
- ・ 生産技術の継承
- ・ 研究開発への投資
- ・ 原材料の安定調達ルートの確立

③ 人材育成と組織環境整備

- ・ グローバル人材の採用及び育成
- ・ 次世代経営層の育成
- ・ 業務効率化の推進

新中期経営計画 まとめ

新中期3ヶ年経営計画

| (単位:百万円) | H23.3 実績 | H24.3 | H25.3 | H26.3 | H23→H26 伸長率 % |
|----------|-------------|--------|--------|--------|------------------|
| 売上高 | 49,313 | 49,360 | 50,320 | 51,750 | 104.9% |
| 営業利益 | 2,080 | 1,790 | 1,880 | 2,210 | 106.2% |
| 営業利益率 % | 4.2% | 3.6% | 3.7% | 4.3% | |
| 経常利益 | 2,223 | 1,730 | 1,970 | 2,400 | 107.9% |
| 経常利益率 % | 4.5% | 3.5% | 3.9% | 4.6% | |

1. 平成23年3月期 決算報告

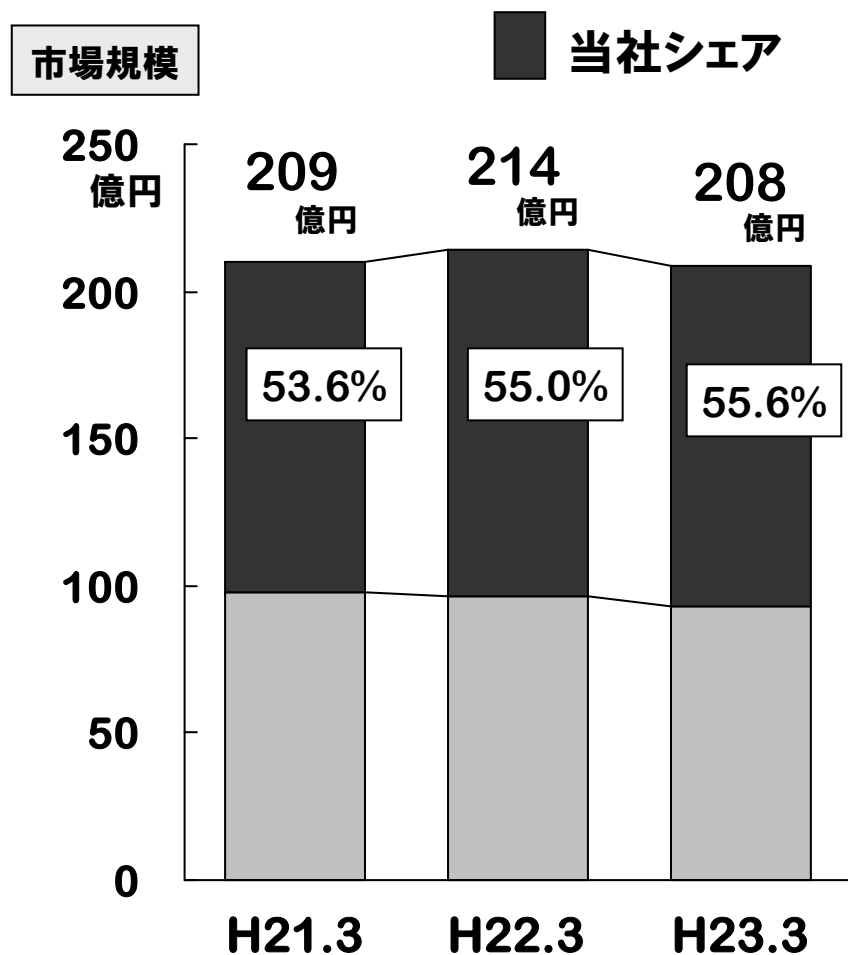
2. 平成24年3月期 業績見通し

3. 新中期経営計画

巻末資料

巻末資料 ① 市場規模と当社シェア推移

● 焼肉のたれ



新商品の情報

● 黄金の味 具だくさん (平成23年3月発売)

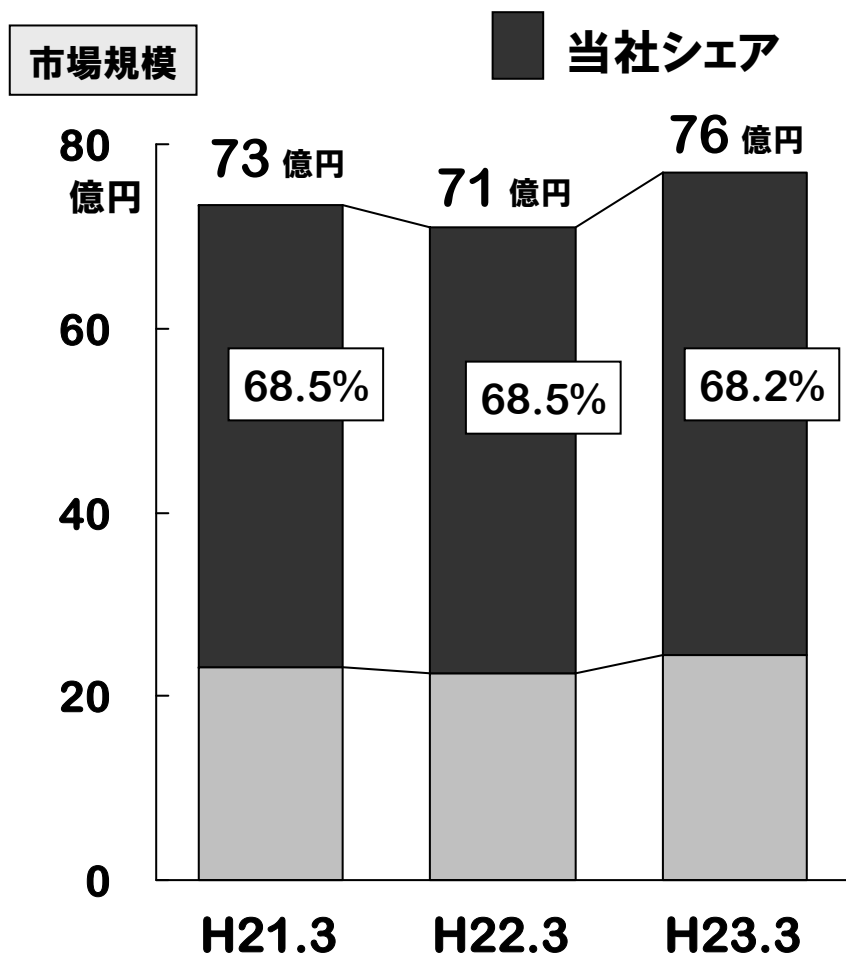
「黄金の味」のおいしさはそのままに、玉ねぎ・白ごま・ガーリックを加えた食べ応えと、より多様な使い方が楽しめる焼肉のたれです。



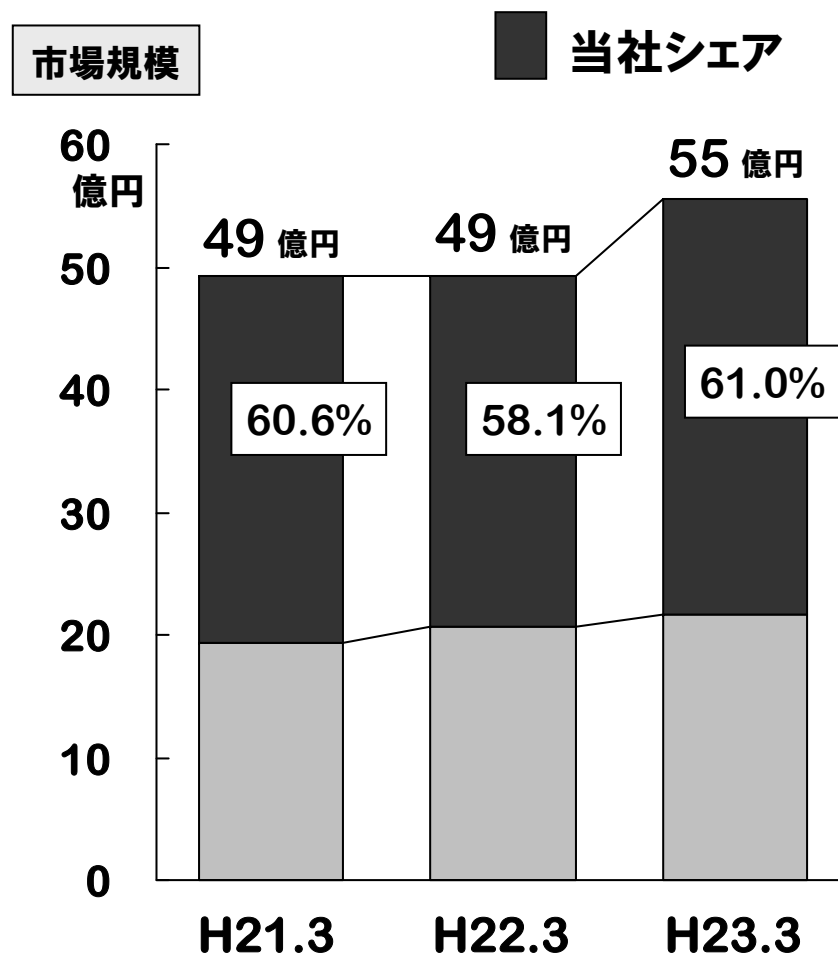
※ 出典：インテージSRIデータ 平成22年4月～平成23年3月

巻末資料 ① 市場規模と当社シェア推移

● すき焼のたれ



● 浅漬けの素



※ 出典：インテージSRIデータ 平成22年4月～平成23年3月

巻末資料 ② 会社概要

| | |
|-------|--|
| 商号 | エバラ食品工業株式会社 |
| 本店所在地 | 横浜市西区北幸二丁目5番15号 |
| 代表者 | 代表取締役社長 藤川 雍中 |
| 事業内容 | 調味料食品の製造販売 |
| 資本金 | 13億8,713万円 |
| 設立 | 昭和33年（1958年）5月 |
| 従業員数 | 【連結】662名 【個別】462名（平成23年3月末時点） |
| 連結子会社 | 株式会社 横浜エージェンシー 株式会社 エバラ物流 株式会社 サンリバティー横浜 荏原食品（上海）有限公司 |

巻末資料 ③ 沿革

- 昭和33年 5月 荏原食品株式会社設立
- 昭和43年 3月 「焼肉のたれ・朝鮮風」発売
- 昭和43年 7月 エバラ食品工業株式会社に商号変更
- 昭和45年 4月 テレビCM 開始
- 昭和53年 6月 「黄金の味」発売、テレビCMを全国一斉放映
- 昭和55年 7月 群馬工場(群馬県伊勢崎市)稼動
- 昭和56年10月 株式会社日本冷食(冷凍食品の製造販売)を子会社化
- 昭和59年 4月 栃木工場(栃木県さくら市)稼動
- 11月 宣伝部門を独立 株式会社横浜エージェンシー設立
- 平成 2年 5月 株式会社エバラ物流を設立 物流事業に進出
- 平成 6年 4月 津山工場(岡山県津山市)稼動
- 平成15年 4月 中央研究所(神奈川県足柄上郡)を開設
- 11月 JASDAQ市場に株式を上場
- 平成16年 9月 株式会社サンリバティ横浜(人材派遣業)を子会社化
- 平成17年 4月 中国現地法人 荏原食品(上海)有限公司を設立
- 平成18年 3月 株式会社日本冷食の全株式を譲渡
- 平成20年 5月 設立50周年

こころ、はずむ、おいしさ。

エバラ

※ この資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記載は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

※ 本資料の金額は、単位未満切捨てで表示しております。比率は小数点第1位未満四捨五入で表示しております。

● お問い合わせ先：経営企画室（TEL 045-314-0261）